

総務審議官に就任して

総務省 総務審議官

つきお よしお
月尾 嘉男

はじめに

本日は、このような機会をいただきありがとうございます。「総務審議官に就任して」という題でスピーチを依頼されましたので、まず就任にかかわるお話をさせていただきます。

この話を最初にいただきましたとき、私はこれまで学者の立場で外部から意見を自由に言わせていただいていたのですが、役人になると発言が制約されるということもあり、一度はお断りしましたが、総務省側の熱心なお誘いもあり、結局お引き受けすることになりました。

大学と役所の違い

第1は、大学は職員2~3名の個人経営主である教授が集合した組織で、自分の発言内容は自分で責任を取れば済むのですが、現在では巨大組織の、大臣から数えると10番目の地位なので、発言に、いろいろと配慮する必要が出てきました。

第2は、外から見てみると、役所は楽な仕事だと思いましたが、内部に入ってみると激務で、大学とは違い、自分のペースで仕事ができずに、苦勞しているという状況です。

政策は長期的な視野で

役所での仕事はIT政策と国際関係担当ですが、仕事をしていると、国家や国益ということを毎日のように感じます。しかし、次々と発生する日常業務を処理していくと、どうしても短期的な政策を策定しがちです。やはり国益の観点で考えると、長期的な視点でのIT政策が不可欠です。

転換期を迎えた日本社会

現在の日本は、明治以来の社会構造から、大きく方向転換せざるを得ない状況にあると思います。例えば、人口の減少、地方分権、環境問題など、長期的に考慮しなければならない大きな問題がありますが、これらの問題にどうITを活用していくかということを考えるべく、省内の若手職員と定期的に勉強中です。その論点のいくつかを以下に紹介させていただきます。

生活優先社会とIT

仕事よりは生活、会社よりは家庭、労働よりは余暇という方向へ国民の意識が変わってくるときに、ITを活用した在宅勤務を推進していけば、多くの方が家庭で過ごす時間や地域で生活する時間が長くなり、地域が再生すると思います。

このような疲弊した地域社会の復活ということも、ITで取り組んでいく必要があります、それを考えていくことが、総務省の重要な役割ではないかと考えております。

環境問題とIT

環境問題はこれから人類が避けて通れない大事な問題となっており、国際政治の世界でもITと並んで環境問題が重要な課題になっています。

例えば新聞について考えてみますと、紙に比べて電子新聞のほうが、エネルギー消費量が20分の1という計算があり、また、新聞紙は日本の紙の消費の約10%を使用しておりますから、これを大幅に減らしていけば、森林資源の保全にも役立ちます。このようにITは環境問題に貢献することも十分に考えられると思います。

地域再編とIT

地方分権や地域分散という点で見れば、大都市から地方に移るIT企業が少しずつ増加しています。例えば、amazonというアメリカのインターネット書店は、日本におけるカスタマーセンターを札幌に設置しましたが、ITを使うことにより、従来、東京に立地してきたビジネスを地方へ移し、地方で新しいビジネスが活発になることも可能です。このような地域再編にITを活用していくことが総務省の重要な役割ではないかと考えております。

IT活用のための外交

次に、国際交渉についてですが、特に今年は接続料見直しの年にもなっており、情報通信分野の国際化を一層進めざるを得ないと思っております。

金融関係を例にとれば、さまざまな国際的な制度を一気に導入したわけですが、情報通信分野の国際社会での重要性に鑑み、国益の維持と業務の開放の均衡を考えて国際交渉に臨まなければならないと決意しております。

おわりに

ITUは100年以上前から国際社会に開かれた窓口であり、日本が国際社会で活躍するときに重要となる分野が情報通信であると考えますと、情報通信分野の国際的取り組みの責務を担っているITUは極めて重要な組織であると思います。しかも日本は、国連の専門機関ではユネスコとITUだけに事務総局長のポストを持っているということもあるので、今年の9月から10月にかけて行われるITU事務総局長選挙に内海氏が再選されることを願っております。皆様のご支援をよろしくお願いします。

最後に、この日本ITU協会がますます発展されますことを期待しております。

(2月13日 第309回ITUクラブ例会より)